

安野発電所への中国人強制連行

和解を導いた力 Part 4

「生きてこれたのが不思議だ」

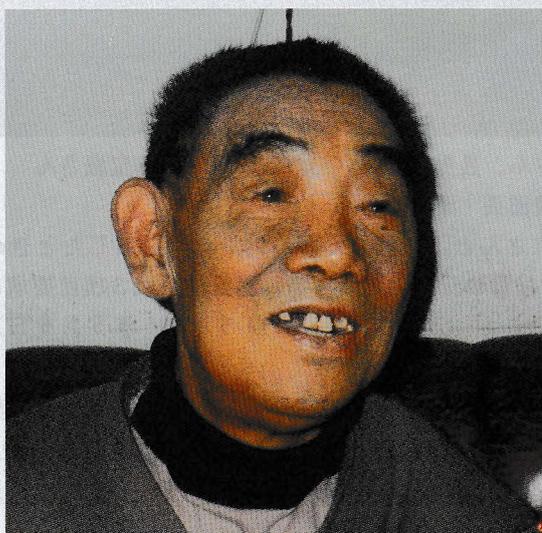
被爆者・于瑞雪さんの生涯をふりかえる

日時：2024年10月19日(土)14:00～16:30

会場：広島弁護士会館 3階ホール（広島市中区上八丁堀 2-73）

参加費：500円

主催：広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会



被爆したときの様子を語る于瑞雪さん
(1994年5月、遼寧省大連市の自宅)

アジア・太平洋戦争の末期、労働力不足を補うために、東条英機内閣が閣議決定して、中国から約4万人の中国人を強制連行し、全国135か所の事業場で重労働に従事させました。その結果、約7000人が日本で命を落としました。生き残った中国人は、日本敗戦後、何の補償も受けることなく集団で帰国しました。広島では、西松組（現在の西松建設）が360人を安野発電所の建設工事に従事させ、29人が死亡（うち5人は原爆死）し、331人が帰国しました。

安野へ強制連行された中国人のその後の消息は長く明らかになっていませんでしたが、1992年から広島市民と河北大学による日中共同調査が始まりました。93年に被害者2人が半世紀ぶりに来日し、西松建設に対して3項目要求（公式謝罪、追悼碑と記念館建設、しかるべき賠償）を提出して補償交渉を開始しました。94年には于瑞雪さんら4人も交渉に加わりました。しかし西松建設が責任を認めなかったため、5人が原告となって西松建設を広島地裁に提訴。広島高裁で勝訴しましたが、2007年4月、最高裁の不当判決により敗訴しました。

「いちばん苦しかったのは毎日の労働でした。靴がなく、わらでぞうりを編んで履きました。わらがなくなると、春と秋は裸足で、冬は足をセメント袋で包み草でしばって働きました。雪がひざの下まであるときにも働きました。どうして生きてこれたのか、不思議です」

（于さんは事件に巻きこまれて逮捕され、広島刑務所に収監されました）

「8月6日朝8時ごろ、私は両手に手錠をかけられて独房にいました。突然、衝撃波で頭の後ろを撃たれ、右の耳にガラス片が刺さりました。建物はすっかり吹き飛ばされました。何もかも黄色く見えて、目がはつきり見えなくなりました。高い塀があったので、幸い生きていられました」

<プログラム>

第1部 映像で見る于瑞雪さん

第2部 遺族が語る于瑞雪さん

于蘭芬さん（三女 大連市）

于栄春さん（四女 大連市）

第3部 講演

岩崎誠さん（中国新聞社 特別論説委員）

「戦後79年『獄中被爆』を問い直す」

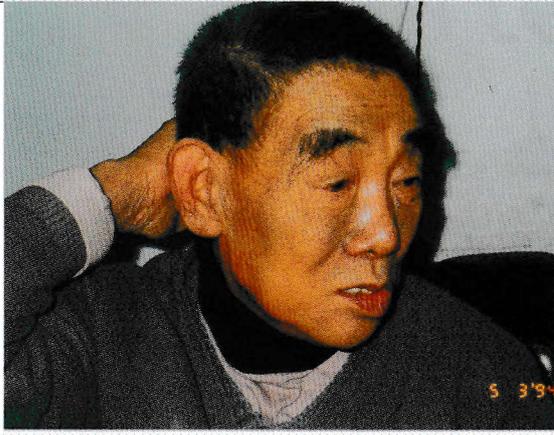
于瑞雪さんは帰国後、いろいろな病気を併発して闘病を続け、1995年5月に70歳で亡くなりました。

最高裁判決後、2009年10月に西松建設との間で和解が成立しました。2011年10月、四女の于栄春さんが和解事業の第3回訪日団に参加して来日しました。

本集会では、于瑞雪さんの生涯を映像や証言を交えながら、さまざまな角度からふりかえります。

遺族の于蘭芬さんと于栄春さんを中国大連市からお招きし、父・于瑞雪さんについて語っていただきます。ふるってご参加ください。

被爆した于瑞雪さん



「原爆が炸裂したとき、頭の後ろを衝撃波に打たれ、右のこめかみと右耳にガラス片が刺さりました」



(右手前から奥へ) 于瑞雪さん、長男・忠傑さん、河北大学・劉宝辰さん
(左端) 広島からの訪中調査団長・栗栖薫さん

広島で一緒に被爆した呂学文さんと孟昭恩さんが1993年に訪日したときのニュース映像を上映。被爆者検診や安野発電所再訪、西松建設に3項目要求を提出した様子を見る
(遼寧省大連市の自宅 1994年5月3日)

于瑞雪さんは肝硬変の病状が重く、寝たきりの状態でしたが、日本からの訪問を喜び、息子さんに支えられてソファに座り、当時の体験を語られました。

安野での厳しく辛かった労働と生活をふり返って、「どうして生きてこれたのか、不思議だ」と締めくくった言葉が印象的でした。

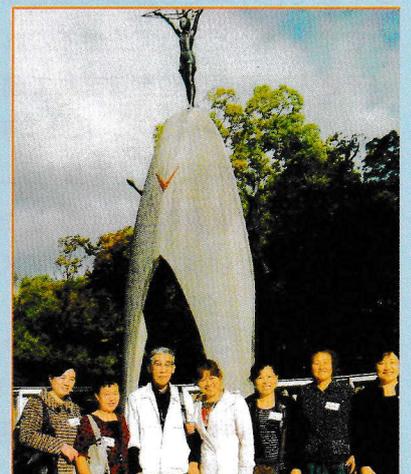
3~4年前から民間賠償のを知り、「日本で働かされたのに1銭もくれなかった。働いた分だけでも返してもらいたい」と息子さんに話していたそうです。西松建設との補償交渉に加わる意思を表明して、西松建設に対する要求書にサインされました。

しかしその後、病状が悪化して、翌95年5月に逝去されました。



四女・于栄春さんが2011年10月、和解事業の第3回訪日団として来日。強制労働の地を訪ね、記念碑前で開催された追悼の集いで献花し、父・瑞雪さんを偲びました。
(左写真の右側)

また、平和公園を訪ねて原爆のすさまじさ、被害の甚大さにふれました。
(右写真の中央)



【連絡先】 広島安野・中国人被害者を追悼し歴史事実を継承する会

《電話》 080-3880-8340 《Eメール》 ykkwhr@pony.ocn.ne.jp 《ホームページ》 <https://keishousurukai.com/>